

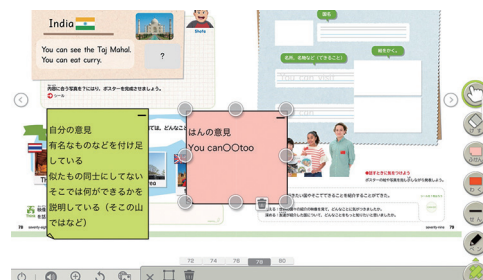
I want to go to Italy.

目標

自分の行きたい国について、相手にも行きたいと思ってもらうために、伝えようとする内容を整理した上でその国の魅力を伝えることができる。本時は相手が行きたいと思うような紹介にするために、相手が世界の国でいたいことを知るとともに、自分の行きたい国とその理由を伝え合うことをねらいとした。

活用ポイント

デジタル教科書のネイティブ・スピーカー等が話す音声を何度も聞き、場合によっては既習の単元に戻ることで、発表や友達とのやり取りで活用できる表現や言葉を見つけ出し、書き込む。



授業展開例（5時間目／全8時間）

	< 学習活動 >	< デジタル教科書の活用例 >
導入	<p>デジタル教科書に設定されている登場人物等による発表映像を視聴し、どのような場面でのどのようなことを話しているか推測する。</p>	
	<p>自分が行きたい国の写真などで構成されたスライドを基に、ペアに対して、自分の行きたい国とそこでできることを紹介する。</p>	<p>学習者 デジタル教科書の発音や表現を手本にして、自分が行きたい国とそこでできることについて伝え合う。</p>
展開	<p>デジタル教科書のネイティブ・スピーカー等が話す音声を聞いて、自分が紹介する国をペアがより行きたいと思ってもらえるための表現や工夫を見つける。</p>	<p>学習者 デジタル教科書の音声を何度も聞くことで、より良い紹介にできるような語彙や表現を見つけ、デジタル教科書に書き込む。 効果01 </p>
	<p>グループで意見を交流し、自分が紹介する国をペアがより行きたいと思ってもらえるための表現や工夫について考える。</p>	<p>学習者 デジタル教科書の書き込みを基に意見を交流する。 効果02 </p>
	<p>Unit 1 の音声を聞いて、Do you like ? や What do you like ? といった相手に問いかける表現を確認する。</p>	<p>学習者 Unit 1 の音声を聞いて、今回の単元でも活用できる語彙や表現を見つける。</p>
	<p>再度ペアになり、自分の行きたい国とそこでできることなどを紹介し合う。</p>	<p>学習者 デジタル教科書の発音や表現を手本にして、自分が行きたい国とそこでできることについて伝え合う。 効果02 </p>
	<p>上手にやり取りができていたペアの学級全体に対するやり取りを見て、自分の発表に生かせる部分を見つけ、再度自身の発表を見直す。</p>	
まとめ	<p>本時学習したことや次時に取り組みたいことなどをワークシートに記入する。</p>	

※授業の学習指導案等を参考にして作成していますが、実際の授業の流れとは異なります。

デジタル教科書の活用による効果

活用効果 01

現代の標準的な発音や語彙、表現などの確認等について個人のペースで学習することができる。

個別



- デジタル教科書のネイティブ・スピーカー等が話す音声を自分に適した速度や聞き逃した部分などを重点的に聞くことによって、語彙や表現の習得が可能になる。
- 現在学習している単元だけでなく、既習単元の音声についても必要に応じて聞き直すことで、既習事項の定着につながる。

活用効果 02

デジタル教科書に書き込んだ内容に基づいて話し合うなど、交流することにより、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などにより応じた内容に再構築することを促すことができる。

グループ



- 音声を聞いて気付いたことや工夫をデジタル教科書にメモすることで、コミュニケーションの時に確認することが可能となる。
- ペアでのやり取りにおいて、分からない表現などをデジタル教科書ですぐに確認することやデジタル教科書の音声を手本にすることで、より適切な英語を使ったコミュニケーションが可能になる。

学習効果を高める工夫



工夫01

ネイティブ・スピーカー等が話す音声を聞く際は、児童が主体的に速度や繰り返し聞く箇所などを選択。

個別

児童が主体的に音声の速さや聞く箇所を選択できるようにすることで、分からない部分は速度を落として何度も聞き直すといった個々の児童に適した学習が可能になる。字幕に関しては、児童が自由に見るのではなく、数回聞いて分からなければ許可するといった、目的に応じたルール作りが必要である。



工夫02

デジタル教科書の音声を聞いて気付いたことや工夫をグループ等で共有。

グループ

デジタル教科書へのメモを基にコミュニケーションの時の工夫や使える語彙や表現をグループ等で話し合って共有することによって、改善点を明確にした上でコミュニケーションをすることができる。

担当教師の声

児童が初めて耳にする英語はたくさんあるが、教師に尋ねるのではなく、児童がデジタル教科書を使って自分自身で何度も聞くことで知識及び技能の習得や不安の解消につながる。実際にペアでコミュニケーションをする時に分からない表現はすぐに確認でき、既習単元の内容についても容易に振り返ることができ、コミュニケーションに活用することができた。